

令和5年度

つながりひろがる
地域づくり事業
成果報告書

安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課

Tel 0263-71-2494

Mail chiikizukuri@city.azumino.nagano.jp

以前のものはHPから
見ることができます



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

17 パートナシップで
目標を達成しよう



目 次

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	岩原のたからをガイドブック片手に楽しもう2nd	岩原の自然と文化を守り育てる会	2
2	アルプスあづみの公園及び安曇野里山整備と鳥獣被害対策のための伐採を中心とする活動	あづみの樹楽会	4
3	安曇野案内人倶楽部「ふるさとさんぽ」	安曇野案内人倶楽部	6
4	臼井吉見と安曇野に生きる	臼井吉見文学館友の会	8
5	ボッチャで安曇野をバリアフリー社会にしよう	つむぐ広場ココクル	10
6	イエナ式おうち探究塾	ママの働き方応援隊 信州中央校	14

事業名 岩原のたからをガイドブック片手に楽しもう 2nd

団体名	岩原の自然と文化を守り育てる会		
代表者名	百瀬 新治	構成人数	55人
活動拠点所在地	安曇野市堀金烏川 岩原区内		
事業実施総額	464,812円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	岩原区内文化施設等岩原のタカラ解説板作成及び、標柱資材		
事業実施日・期間	令和5年4月22日～令和6年3月10日		
事業概要・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、当会作成刊行のガイドブックに掲載している「岩原のタカラ」の解説板31枚を作成し設置した。これで全61枚の設置が完成した。 ・結果として、岩原の貴重な文化財や特徴的な自然や歴史の遺産について、その場で説明を見て知ることが可能となった。そのことで、岩原区を直接訪れる人が増え、地区外との交流や地域の活性化の増進につながると考える。 ・解説板も利用しながらの『ガイドブック片手に岩原のタカラめぐり』は月1回実施され、延べ300人ほどの参加があった。補助事業の趣旨に合致した取り組みが具体化され地域づくりが前進している。 		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに必要な解説板については、自己資金を主に追加増設する方向で取り組んでいく。 ・岩原のタカラめぐりについては、国営アルプスあづみの公園と提携し、さらに充実した内容で3年目以降も継続的に実施していきたい。 		

**たから巡り2ndの
様子(抜粋)**

第1回 4.22(土)
岩原山神社担ぎ舟実物見学



第2回 5月13日(土)
オオルリシジミを探し岩原を楽しむ



第3回 6月10日(土)
若宮様・安楽寺を訪ね 山の中の社寺を偲ぶ



第5回 8月12日(土)
大庄屋山口家を訪ね



第6回 9月9日(土)
烏川沿いの遺跡巡り



第7回 10月14日(土)
狼煙リレーを見学する



第9回 12月9日(土)
烏川の用水取り入れ口



案内看板(抜粋)



事業名 アルプスあづみの公園及び安曇野里山整備と鳥獣被害対策のための伐採を中心とする活動

団 体 名	あづみの樹楽会		
代 表 者 名	渡辺 晃	構成人数	23名
活動拠点所在地	安曇野市内（明科・穂高）		
事業実施総額	270,000円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	活動保険代・ガソリンオイル・備品購入など。		
事業実施日・期間	2023年4月18日～2024年3月31日		
事業概要・成果	<p>1. 活動状況は、会員23名と会員外の人5名を含めて、2023年4月より2024年1月末までに、活動日26日、延べ人数202名でした。</p> <p>2. 事業概要</p> <p>①里山整備 明科東川手、中耕地を中心に、伐倒の除去、枯れた松の伐採・処理、林道の整備、桜植樹及び柵のメンテナンス等を実施しました。</p> <p>②伐倒講習会は、当初予定していた講習会会場となる公園との日程調整がつかず、中止となった。</p> <p>③地域との交流では、明科北小の野外活動イベントを企画し、協力した。里山市・市民活動フェスタへの参加。</p> <p>④鳥獣被害対策では、クマ対策・アルプスあづみの公園烏川両岸の緩衝帯伐採活動を実施している。</p> <p>⑤あづみの公園内の里山整備は、来年度、さとやま楽校の教室を、『一から始める未来の里山再生』をコンセプトに開始する事となりました。</p> <p>活動の写真は、次頁に記載します。</p>		
今後の展開	<p>以下の活動を継続発展させます。</p> <p>1. 明科天田山の桜の植樹と周辺整備や里山整備</p> <p>2. 鳥獣被害対策・クマ対策の烏川伐採活動</p> <p>3. 木の有効活用：木工作家とのコラボ、ふるさと納税返礼品の拡充</p> <p>4. 学校林整備や講習会などの地域貢献</p> <p>5. アルプスあづみの公園での里山再生計画を開始する。</p>		

本年の主な活動

里山整備

明科の森林整備

明科天田山周辺や保安林の整備と、枯れた松他、伐採しました。人の手が入らず、放置され、倒木など荒れた明科の森林の間伐作業を行いました



伐採前の荒れた森



伐採後の森

鳥獣被害対策の伐採活動
(クマ対策の緩衝帯作り)

クマが人里に侵入する経路として、河川を利用することが多いと言われていますが、利用する頻度を低下させる目的で、烏川の河川敷の木を伐り、緩衝帯を設けます。クマと人の出会い頭の衝突を避ける事目的とします。活動時期が河川の渇水期に限られるため、今年度は、20m から 40m幅での伐採を行い、活動は、来年度以降も継続します。



伐採後見通しが
良くなった河川敷



伐採作業動画

明科北小の野外活動など
地域の人との交流

生徒たちは、自分たちの地域を良く知ろうという事で、昔の集落跡や、森林整備の意味を学び、のこぎりを使った工作にも取り組みました。

桜の植樹活動は、作業後に地元の人も交えて、お花見をしました。



野外学習

伐採作業を見る子供達



桜植栽後のお花見

事業名 安曇野案内人倶楽部「ふるさとさんぽ」

団体名	安曇野案内人倶楽部		
代表者名	高松 伸幸	構成人数	24名
活動拠点所在地	安曇野市穂高 5971-1		
事業実施総額	128,600円	補助金額	54,000円
主な補助金使途	チラシ、配布資料のコピー代 消耗品（救急セット他）の購入		
事業実施日・期間	令和5年8月5日～令和6年3月24日		
事業概要・成果	<p>○「ふるさとさんぽ」と題してまち歩きを企画し、ふるさと安曇野を見直すきっかけを作り、安曇野の歴史、文化遺産等の再認識と継承を進める。</p> <p>○安全確保の為に救急セットの購入と、応急手当講習会を実施した。</p> <p>ふるさとさんぽ実施報告</p> <p>8月5日（土）「旧篠ノ井線廃線敷・鉄道遺産と明科の歴史を辿る」5名参加</p> <p>10月9日（月・祝）「大王わさび農場英語でガイド」12名参加</p> <p>11月12日（日）「三郷野沢・蚕種の里と屋敷林を訪ねて」12名参加</p> <p>12月2日（土）「りんご農園を英語でガイド・三郷」6名参加</p> <p>12月3日（日）「旧篠ノ井線廃線敷Ⅱ・鉄道遺産を辿る」5名参加</p> <p>以下実施予定（2024,2月～3月）</p> <p>2月17日（土）「安曇野の冬の風物詩を英語でガイド・白鳥、おやき」</p> <p>3月17日（日）「穂高神社と道祖神めぐり・奉射祭と道祖神の里」</p> <p>3月24日（日）「安曇野の原風景、矢原・白金を歩こう」</p> <p>応急手当講習会 1月11日（木）穂高消防署の皆さん 会員17名参加</p> <p>成果：補助金制度を使う事により、配布用のチラシ部数の増大が図れ、案内人倶楽部の活動の周知と、安曇野の各地の歴史、文化、産業等を広報する役割ができた。</p> <p>：救急セットの購入と講習会実施</p>		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・2月17日の英語でガイドは10代から80代の方の申し込みがあり、本来の目的である子供から大人まで英語で安曇野を案内するという流れができつつあるので、来年度も継続実施していきたい。 ・安曇野の歴史、風土、産業等を巡るまち歩きを今後も実施していきたい。（例：堰と屋敷林、湧水と本棟造り、天蚕、東山山麓古代の道、信仰と伝説） ・安全管理マニュアルの充実 ・参加人数を増やす工夫 		

ふるさとさんぽの様子と
応急手当講習会の様子



10月9日の「大王わさび農場英語でガイド」の様子です
雨の中でしたが、大王わさび農場のご厚意で会場をお借りしました。



11月12日（日）「三郷野沢・蚕種の里と屋敷林を訪ねて」
元酒蔵のご当主の方にお話を伺いました。



12月2日（土）「りんご農園を英語でガイド・三郷」
畑をお借りしたリンゴ農家の方に、三郷のリンゴの特徴や栽培の歴史、
ご苦労などをお聞きし勉強になりました。



応急手当講習会の様子と救急セット。

地域への還元

「ふるさとさんぽ」では1回以上の下見を必ず行い、ルート
の安全確認、施設の利用許可、個人の方へのご挨拶や情報収集
を行いました。当日も可能な限りお話を聞き取る事により、
交流の場を広げられました。今後も地域のPRに努めていきます。
事務局 手塚 博登

事業名

臼井吉見と安曇野に生きる

団体名	臼井吉見文学館友の会		
代表者名	佐々木重昭	構成人数	135人
活動拠点所在地	臼井吉見文学館 安曇野市堀金烏川2701		
事業実施総額	128,960円	補助金額	96,000円
主な補助金使途	講師謝礼、チラシ印刷費、インク、コピー用紙、会場費、通信費		
事業実施日・期間	毎月1回開催の定例学習会6団体、公開シンポジウム(11月25日)		
事業概要・成果	<p>1 事業の目的等</p> <p>①臼井吉見が大切にしてきた多様な考えを持つ人との対話することの意味や価値について、臼井が残した記録をもとに学び合う。</p> <p>②現代社会が持つ同調性や排他性に対する課題意識を持つ。</p> <p>③ひとつのテーマについて異世代の人と情報共有をすることにより、自身の知見を深める。</p> <p>2 事業の具体的実施内容</p> <p>① 学習会(・筑摩書房草創期を語る ・『自分をつくる』を読む ・『堀金村誌』を読む ・安曇野の人びとを語る ・臼井吉見関連本を読む ・臼井吉見と学ぶ会)を毎月1回開催する。</p> <p>②公開シンポジウム(11月25)を開催 ・6つの学習会を毎月開催</p> <p>3 成果</p> <p>①事業の実施により、共通テーマのもとに異年齢を含め、多様な考え方を持っている人との対話の機会を設定し、参加者の知見を深めることができた。</p> <p>②公開シンポジウム参加者 67人から満足度 88%を得ることが出来た。</p> <p>③友の会に新会員として17人を増やすことが出来た。</p>		
今後の展開	<p>・今年の事業の継続を望む声が多い。次年度も広く周知を図りながら実施したい。</p> <p>・学習会に参加者を待つというスタンスでなく、学校教育と協働し、出前講座の取組を展開したい。</p> <p>・友の会の取組を広報物やSNSを利用し、広く市民に周知する取組をすすめたい。</p>		

本年の活動

○学習会

- ・筑摩書房草創期を語る会（第1木曜日）
- ・『自分をつくる』を読む会（10日）
- ・『堀金村誌』を読む会（第3木曜日）
- ・臼井吉見と学ぶ会（第2日曜日）
- ・臼井吉見関連本を読む会（第3金曜日）
- ・安曇野のひとびとを語る会（第4木曜日）

○公開シンポジウム

- ・11月25日（日）
13:30～15:30

<基調講演>

「私が願う「愛国心」とは—チェルノブイリ医療支援活動を通して—」

（菅谷昭さん：松本大学学長）

<パネリストディスカッション>

- ・菅谷 昭 さん
- ・中村 直志 さん（信濃毎日新聞社文化部部長）
- ・藤田 達也 さん（松本大学大学院2年生）
- ・滝沢 葵 さん（長野県県ケ丘高校1年生）
- ・佐藤ふわり さん（安曇野市立穂高西中学校3年生）



令和2年開設の「『堀金村誌』を読む会」です。堀金の歴史に重ねて、自分たちの地域の文化や風俗を見直しています。



本年より開設の「臼井吉見と学ぶ会」。第1回学習会が7月9日に行われました。高校生2名を含め、12名が参加しました。今年のテーマは、「愛国心」です。



「『自分をつくる』を読む会」臼井吉見の講演記録集『自分をつくる』をテキストに、令和の時代にも通じる臼井の考え方について意見交換をしています・

「Z(ぜっと)世代と語る 令和の愛国心」をテーマにシンポジウムを開催しました。会場は、堀金公民館講堂、67人の参加を得ました。



満足度：88%

○参加者の声

・中学生、高校生の発言を聞いたことがよかった。
・自分と同年代の人たちの話を聞くことができ、年が近い人でも様々な考え方があるのだと実感できた。（24歳）



・尊重とか愛とか、やはり難しいです。自分がどの立場にいるのかを考えたい。また、無関心の人にどうメッセージを送るかも、難しい。
・パネリストの皆さんがしっかりと述べる（表現する）姿に感銘を受けた。

事業名 ボッチャで安曇野をバリアフリー社会にしよう

団体名	つむぐ広場ココクル		
代表者名	松永広枝	構成人数	6人
活動拠点所在地	安曇野市穂高有明		
事業実施総額	118,400円	補助金額	59,000円
主な補助金使途	スタッフウエア制作・活動備品購入・チラシ印刷代など		
事業実施日・期間	令和5年4月から令和6年3月		
事業概要・成果	<p>1 事業概要</p> <p>目的：地域の障がい者が気軽に軽スポーツを楽しみながら外出し、地域の方々と交流する場を提供することを通して、参加者の健康維持や社会に参加する気持ちを高め、安曇野市のバリアフリー社会、多様性を尊重した共生社会の一助とすることを目的として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業はボッチャ練習会を毎月1回計12回（うち2回は交流練習会）ボッチャ体験会を1回実施し、希望者の大会参加も支援した。 <p>2 事業成果</p> <p>①ボッチャ練習会（月1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習会は1回2時間で、会場準備、準備体操、投球練習、交流試合、片付けの順で実施し、参加者に準備や片付けは協力いただき自主的な活動になるようサポートしている。 ・参加者は知的障がい、精神障がい、身体障がい者およびその支援者、一般のボッチャに興味のある方、関節疾患術後や高齢で体力に自信がない方などであった。 ・参加者は1回10-20人（1回平均14.7人） 新規参加者は1回平均 2.8人 障がい者の参加は1回 4.8人 <p>②交流練習会 2回（6月・1月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習会のうち、年2回は交流レクを実施した。 ・参加者同士が交流し、協力して行えるゲームを通してボッチャのスキルを高め、参加者同士の相互理解を深めた。 <p>③ボッチャ体験会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャを地域の方々に体験してもらうため体験会を実施した。 ・参加者19名（高齢者・障がい者・一般の方々の参加） 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から 参加者からは「わかりやすく体験できた」。「またボッチャをやりたい」との声があがり、地域の方々にボッチャを体験してもらうことができた。 ④地域の大会への参加支援 <ul style="list-style-type: none"> ・大会参加希望者3名とスタッフで大会に参加した。 ・地域の大会への参加では、選手宣誓の依頼を受け、パラウエーブ地区大会では予選リーグを突破し、地域の小学生グループとも対戦して交流するなど、活動を広げることができた。
<p style="text-align: center;">今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャは障がいや年齢に関係なく楽しめるスポーツであるが、障がい者や高齢者の参加はまだ多いとは言えず、参加拡大が課題である。 ・障がい者や高齢者がかかわる幅広い場に活動情報を届けて参加者を増やしていきたい。 ・地域での移動手段も参加には欠かせない要素であり、移動支援の活用も課題である。 ・興味をもって継続して活動に参加していただくために、新しいユニバーサルスポーツを紹介する、ボッチャのスキルアップにつながる講習をするなどの活動も行っていきたい。 ・地域の大会への参加は、活動を地域に紹介するための良い機会であり、練習を重ねて大会参加へつなげたい。 ・地域の大会で知り合ったグループと交流練習をするなど、地域との交流を広げ、深める支援をしていきたい。
<p>本年度の活動</p> <p>①ボッチャ練習会 月1回2時間</p>	<p><練習会></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>協力して会場準備を行い、準備体操・投球練習・交流試合を実施。</p> <p>試合後の片付けも障がいに応じて可能なことをそれぞれ手伝い協力しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

②交流練習会

練習会のうち2回

(6月・1月)

<交流練習会>



参加者同士で交流し、楽しくゲームをすることで、ボールの特徴を知り、コントロール力を高めることができます。



参加者同士の交流・理解につながりました。

③体験会

10月21日



高齢者・障がい者・一般のボッチャに興味のある方19名が参加し、ボッチャのルール、試合の進め方を学び、体験試合を行いました。

④地域の
大会参加支援

サンスポートまつもと
ボッチャ交流会
(7月15日波田体育
館)



選手宣誓を依頼され挑戦！ 初めての試合に緊張もしました。

パラウエーブ
NAGANO 中信大会
(11月17日 ANC アリ
ーナ)



初勝利も経験し、来年は県大会を目指す新たな目標もできました。
地域の小学生グループと対戦し、交流ができました。

事業名

イエナ式おうち探究塾

団体名	ママの働き方応援隊 信州中央校		
代表者名	藤原 久美子	構成人数	21人
活動拠点所在地	長野県安曇野市堀金三田 244-1		
事業実施総額	370,920円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	異年齢交流の場の開催のための運営費、講師代など		
事業実施日・期間	2023年7月13日～2024年3月31日まで		
事業概要・成果	<p>我が子の小学校行き渋りの経験から、欠席したからといって自宅で過ごさせるのではなく、外に出た活動を取り入れたことでリフレッシュでき、学校生活に戻ることができたので、子供はもちろん、大人達もそういった理解ある場所の必要性を感じ、今回の活動を始めるきっかけとなりました。</p> <p>共に生きること学ぶ場 異年齢交流を通じて子供たちの承認欲求を満たす居場所作り 子育て中の母親が働くことで社会参加できる場所作り 多世代での交流の中での知識の伝承</p> <p>まず 2023 年度は毎月テーマに沿った料理教室を開催しながら、調理を共同ですることにより距離を縮め、その後のランチタイムではお互いに話をする中で悩みを相談したり、子育て中、家にこもりがちだった方が毎月の開催の時間を楽しみに来てくださるなど、開催を重ねるうちに人数も増え、またイクジィでも告知したことで広く周知でき、新規の参加者さんの参加も増えました。</p>		
今後の展開	<p>今年度参加者同士の共感し合える場ができ、子供たちが参加する様子から、来年度は夏休みを利用して</p> <p>「・自分たちでメニューを決め、予算を立て、参加費の算出」 「・みんなで作って食べる」</p> <p>安心した見守りのある環境で、子供たちの自立を視野に入れた取り組みをしたいと思います。</p>		

今後の展開

令和5年10月16日（月）
季節のランチテーマ
～収穫祭ハロウィン～



【生活排水の質について考えたことある？】

処理センターで流してもよい数値の水に処理されているとはいえ完全に取り除かれているのか？

ゼロは難しいのでは？

排水についても考えていきたいよね？

化学物質のっていないものを選んでいる？

調理器具や食器から流れ出るものもあるよね？

〈選ぶのは私たち。子供たちにも自分で判断して選んでいく力を持って欲しいね。〉

令和5年11月13日（月）
季節のランチテーマ
～クリスマス～



振り替え休日で休校だった生徒に「作ってみてどうだった？」

→楽しいしおいしいし、味見をいっぱいしたけどまだ食べられる！

自分たちにもできることがたくさんあってうれしかった

〈できた！誰かの力になれたっていう体験って自信になるよね！たくさんおかわりしてくれてありがとう〉

令和5年12月11日(月)
季節のランチテーマ
～おせち料理～



身の回りの芳香剤や柔軟剤の香りって触ると手に付いて落ちないのはなぜ？

子供が柔軟剤や芳香剤の香りでくしゃみが始まったり頭痛があることがある〈みんなで香りの害を理解していきながら考えていこう〉

☆令和6年1月22日(月)
季節のランチテーマ
～糰クック～



糰には、善玉菌を増やし腸内環境を整えてくれることで免疫カアップが期待できる。また消化などを助けたり、ビタミンBの補給にもなるなどの糰のメリットやおすすめの塩糰、醤油

糰、ねぎ糰等のアレンジ方法を教えてもらった。

身体によい常備菜、アスリートご飯に興味ありの方が多かった。

